

## 令和7年度「職業実践専門課程」学校生活の集大成

専門学校静岡電子情報カレッジ  
静岡福祉医療専門学校

副校長 有賀 浩

昨年秋に発生した台風15号は、本県にも深刻な爪痕を残しました。牧之原市や吉田町などでの竜巻をはじめとする突風被害や、記録的な大雨による浸水など、多くの方が被災され、今も生活再建の途上にあります。深く哀悼の意を表するとともに、心からお見舞い申し上げます。

また、全国各地でも線状降水帯による豪雨や災害級の猛暑が相次ぎ、自然の脅威を肌で感じる一年でした。被災地におかれましては、一日も早い復旧と復興がなされますことを、心よりお祈り申し上げます。

### ●変化の年、2025年度を振り返る

#### 高市内閣の発足、大阪・関西万博、冬季五輪

政治・経済、国際社会においても歴史的な転換点となる出来事が続きました。秋には高市早苗内閣、そして第2次高市内閣が発足し、憲政史上初となる女性総理大臣が誕生しました。国内では物価高騰が続く一方、AI技術の劇的な進化とDX化推進と、社会全体が新しいフェーズへ移行しつつあります。

そんな中、明るい話題も日本中を駆け巡りました。春から秋にかけて開催された大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」のもと、多くの革新的な技術やビジョンが共有されました。また、先日のミラノ・コルティナ冬季五輪では、日本選手団が史上最多となるメダルを獲得し、限界に挑むひたむきな姿が重苦しい世の中に大きな希望と夢を与えてくれました。

このような目まぐるしく変化する世の中に不安を禁じ得ない日々ですが、日ごろから理事長・校長先生がおっしゃる『「人生100年時代」に向けて、本学で培った知識・技術、技能に加え、『希少性』を高め、各自『自信』を胸に、SDGsからSWG（Sustainable Well Being Goals）に向けて社会へ出てからも学び続けること』、この言葉を胸に、活躍を期待しています。

### ●学校生活の集大成 本学独自の教育プログラムフィールドスタディ CANスカラシップ N-Cap生

教室を飛び出し、実社会というフィールドで視野を広げた皆さんの姿は、大変頼もしく映りました。通常の学校生活では得られないリアルな経験を通じた「自己実現」は、他の学生たちを力強く牽引する素晴らしい模範となっています。教職員一同、心より感謝申し上げます。このプログラムで得た確

かな達成感、そして支えてくださった多くの方々への感謝を胸に刻み、ここで得た実践的な学びを、これからの人生における揺るぎない財産としてください。

- ① 学生企画による特別授業 卒業生を本学に招待してのコラボ授業、静岡DWAT出前講座（特別授業）学年を超越した合同アクティブラーニング
- ② エコキャップ回収 フードドライブ活動
- ③ 子ども食堂の運営・補佐をはじめとする各種ボランティア活動
- ④ 電子×福祉のコラボによる小学校放課後児童クラブでのイベント企画・運営
- ⑤ 未来発見！お仕事体験フェア  
ま・あ・る、マークイズ静岡にて開催 企画・準備・運営
- ⑥ 地域おこし 森下ときめき収穫祭（静岡市景観まちづくり課連携）出店  
事前打ち合わせ・情報交換、企画・準備・運営
- ⑦ 夏のスペシャルオープンキャンパ TA（Teaching Assistant）で自分磨き  
第一弾 「在校生に聞こう！学校生活紹介～授業・実習について」  
第二弾 「卒業生が語る業界、仕事の魅力！学校生活も振り返る！」  
第三弾 「業界人から業界でのキャリアアップ、最新情報をGet！」



### ●電子・福祉コラボで実施

#### 海外研修・修学旅行 「台湾研修・修学旅行」

『日台の歴史的つながりと相互理解、未来を共に切り拓く～日台異文化交流～』

#### SDGsからSWG「Well Being」へ

電子は台北城市科技大学 福祉は天主輔仁大学との交流

研修を通じて、多様性を理解、文化や価値観の違いを体得。各自が身につけた専門的スキルを活かし、「問題解決の具体策」「持続可能な世界を築くための方策」「将来的に自分がどのように目標達成に貢献できるか」等、「異文化交流」の中から仲間との絆を深め、未来への道を切り開くための貴重な機会

となりました。

●令和7年度学生会会長 3ORT 大石 朝陽、副会長 2IT 小林 武尊・2TW 望月 咲来、各クラスの役員のみなさん、1年間ありがとう！  
感染症対策を考慮しながら、年度初めの挨拶運動から始まった学生会活動、成功裏に開催された春秋のスポーツ大会、我道祭等、ご苦労様でした。皆さんのおかげで、思った以上の学校生活が営まれました。

### ●我道祭 文化祭：令和8年2月27日(金)

文化祭・学園祭：2月28日(土)、3月1日(日)

学科イベント、卒業研究・ゼミナール成果発表会、症例報告・卒業研究・ケアスタディ報告会、CANスカラシップ活動報告会  
専門学校静岡電子情報カレッジ

ゼミナール成果発表会 全学年 1月29日(木)

卒業研究科内発表会 卒年全学科 2月6日(金)

卒業研究・ゼミナール成果発表会 卒年全学科 2月27日(金)

### 静岡福祉医療専門学校

卒業研究・ゼミ成果学科内発表会 視能訓練士学科 11月26日(水)

子ども心理学科 2月12日(木)

ケアスタディ学科内発表会 総合福祉学科・介護福祉学科 2月25日(水)

症例報告・卒業研究・ケアスタディ発表会 卒年全学科 2月27日(金)

フィールドスタディ・CANスカラシップ活動報告会 2月27日(金)

### 保育園キッズハウスひかり

令和7年度生活発表会「ひかりの日」2月28日(金)

### 【卒業研究、ケアスタディ発表会・コンセプト】

社会にアプローチできる研究テーマへチャレンジし、そのプロセス、プレゼンテーションを通じて自己のスキルアップを図る。

1. 「時代に即した、将来に向けてアプローチできる研究テーマ」であること
2. 関連知識の幅を広げ、汎用性・応用性を身につけ、「付加価値」創造に繋がる発表であること
3. 「プレゼンテーション」、「コミュニケーション」、「ドキュメント」等の技法をマスターし、アピールする手法を身につけること
4. 「企画書」、「スケジュール進捗状況管理表」等を作成し、与えられた時間内で完成する計画的な研究を目指すこと

5. 意地でも「100%の完成度」を追求する 完成することではじめて達成感、充実感を味わう経験が「モノづくりの醍醐味」につながる
6. 「実証実験」に基づく研究発表とすること
7. 発表の際には、資料を読むのではなく、「自分のプレゼン」をする
8. プレゼンの中に、「試行錯誤した点」や「それを将来、どういう形で役立っていくか」をマトメの中に含み、可能なら「**継続研究**」につなげる
- 成果を残してくれたみんなの**集大成**は、本学の貴重な財産！！

発表にご臨席いただいた先生方から頂いた高評価を、学生諸君は「**自信**」に代え、卒業後、各分野のスペシャリストとしての道に大いに活かして下さい。私たち教職員にとっても大きな「**自信**」となり、これからの学生指導への大きな「**励み**」となりました。

この成果を次年度に継承して、更なるレベルアップに加え、時流を取り入れた研究・活動を行うことで、一層の大きな成果を期待します。

特に、電子の「**産学官連携プログラム**」や電子・福祉のコラボによる「**付加価値創造につながるレベルの研究**」、福祉の「**地域に開かれた専門学校**」に基づく「**ボランティア：地域活動**」に加え、AIの効果的な活用によるDX推進と、更なる発展と後輩への継承を強く期待します。

令和6年度 卒業研究・ゼミナール成果発表会  
症例報告・ケアスタディ・卒業研究発表  
CAN スカラシップ活動報告を終えて

【電子情報 企業対象卒業研究・ゼミナール成果発表会】

○御参加講師(順不同)

◆オフィスアシタノ 代表(本学 非常勤講師):

木野 正弥様

◆コールプロダクション 代表(本学 教育課程編成委員):

興津 伸一郎様

○発表テーマと学生メンバー

<1> 「AIハアシミュレーション」

ITゲーム&ロボットシステム学科2年 木村 健太郎、小林 武尊、長房 蓮

<2> 「アーム型ロボット&ハンド型ロボットの制作」

ITゲーム&ロボットシステム学科2年 神谷 柊羽

<3> 「ゲーム作品のオマージュ動画-音楽・イラスト・動画全て自作で再現-」  
音響&映像メディアクリエイト学科2年

池田 紗羽、大村 琉月、山本 ゆりこ

<4> 「学生主催音楽ライブ-HeartBeatの企画・運営-」

音響&映像メディアクリエイト学科2年

池谷 駿佑、田光 洋大、藤田 拓夢、鈴木 煌樹、宮本 遼介

○講師の方々からのご講評より

<1>

- ・実際に提携先に使用してもらった点が良かったと思う。
- ・第三者の声は自分たちの想像している以外のことがあり、それを実際に反映させていくことは大変だが、対応ができていて素晴らしい。
- ・どんどんAIも進化しているので、今後に期待ができる。
- ・高齢者や障害者や性同一性障害などの自分のやりたい髪型ができない方へ背中を押すきっかけとなりそう。
- ・今の時代ならではの技術を生かして外部と連携した制作という点はとても良かったと思う。

<2>

- ・制作の動機と前期から後期への飛躍が素晴らしかった。
- ・実際に制作してみないとわからない問題や課題を解決して、完成まで持っていけている点が素晴らしい。
- ・義手や義足といった観点から考えてみるともっと伸びしろがあると思う。
- ・“ものを作る”ということはやってみないとわからないことが多く、多くの失敗を積み上げて形に出来ている点が素晴らしい。

<3>

- ・原作の再現という点では本当によく出来ていると思う。ここから学んだことを自分たちの形にしていくことが今後の課題だと思う。
- ・今のデザインのあり方ではなく、敢えて制限をかけてデザインをしている点が良かった。
- ・観ている側として違和感がなく没入できた。楽しく観ることが出来た。
- ・あえて、古い技術を最新の技術を使って、しっかり細部まで再現されていて考えて取り組んだことがとても伝わった。

<4>

- ・たくさんイベントがある中で、独自性がどれだけ出せるのかがポイントになると思う。そのためにどうするかを練ってより良いイベントにしていって欲しい。
- ・音楽イベントという大きなものを学生主体で実施できた点は素晴らしい。

- ・今後のために後輩に受け継いで、学校・学科を代表するイベントにしていって欲しい。

< 総 評 >

- ・全体として、発表のクオリティが高かったと思う。
- ・今の時代に沿った実践的な課題に取り組みができています。
- ・PDCA サイクルを回していくことでクオリティが上がっていくので、意識していって欲しい。
- ・今回学んだことを是非とも後輩に伝えていって欲しい。



【福祉医療 症例報告・ケアスタディ・卒業研究発表  
CAN スカラシップ活動報告】

○発表会御参加講師

◆社会福祉法人静和会 特別養護老人ホーム 丸子の里

施設長：八木 和真様

○発表テーマと学生メンバー

<1> 介護福祉学科2年 ケアスタディ研究発表

「理想と現実のギャップ

～家に帰りたいたいという理想と帰れないという不安に対して～」

前島 圭吾

<2> 総合福祉学科2年 ケアスタディ発表

「認知症利用者様と周囲の関り ～不安からなる様々な症状～」

中島 理琴

<3> 視能訓練士学科3年 卒業研究発表

「剥離をきたす糖尿病網膜症」

大石 朝陽

<4> 子ども心理学科3年 卒業研究発表

「お茶を通して食育を学ぶ」

寺尾 初季・望月雅穂